

1章 仮定法

要点

重要ポイント1 仮定法の形

あることを仮定のこととして述べる時の動詞の形を仮定法といい、「もし…なら」という条件文の形式で用いられるのが一般的である。ifなどで始まる従節を「条件節」、結論を表す主節を「帰結節」という。

If I were in your place, I would not take his advice.

条件節

帰結節

(私があなたの立場だったら、彼の忠告に従わないでしょう。)

	内容	条件節の動詞	帰結節の動詞
仮定法 過去	現在の事実に反すること	過去形	would ; should ; could ; might + 原形
仮定法 過去完了	過去の事実に反すること	過去完了	would ; should ; could ; might + have + 過去分詞
仮定法 現在	現在・未来の不確実なこと	原形	will ; shall など + 原形

※ 仮定法現在については、本科2期に学習する。

■ 確認問題 1

日本語の意味に合うように、カッコ内の語句を並べ換えよ。文頭に来る語句も小文字にしている。

(1) もっと時間があれば、彼の小説を全て読むだろうに。

If I had more time, (of / all / his / read / would / I / novels) .

(2) 雨の中を出かけなかったら、彼女は風邪をひかなかっただろう。

(she / have / a / caught / wouldn't / cold) if she had not gone out in the rain.

重要ポイント2 仮定法過去の用法

仮定法過去は、条件節の動詞は過去形、帰結節の動詞は「過去形助動詞+原形」をとり、現在の事実に反する仮定をする場合や、起こる可能性の少ない現在・未来の事柄を想像して述べる場合に用いる。

be 動詞は人称に関わらず were が用いられるが、口語では、1人称単数、3人称単数が主

語の場合、was がよく用いられる。

(1) 現在の事実と反対の仮定

If he **lived** near our town, we **could go** and **see** him more frequently.

(彼が私たちの町の近くに住んでいれば、もっと会いに行けるのに。)

⇒ Because he doesn't live near our town, we can't go and see him more frequently.

((実際には) 彼が私たちの町の近くに住んでいないので頻繁には会いに行けない。)

If I **were** you, I **would say** nothing about it.

(もし僕が君なら、そのことは黙っているよ。)

※ If I were you は助言を与える表現。

(2) 現在または未来についての、実現の可能性の低い仮定

① If we **take** the airplane, we **can get** there by noon. [直説法]

② If we **took** the airplane, we **could get** there by noon. [仮定法]

(その飛行機に乗れば、正午までにはそこに着くだろう。)

※その飛行機に乗るか乗らないか、五分五分の可能性を持つ場合には、①のように直説法を用いた条件節となる。それに対して、「その飛行機にはまず乗れないだろう」という気持ちが話し手にある場合や、「その飛行機に乗ってはどうか」というごく控えめな提案を表す場合には、②のように仮定法が用いられる。

■ 確認問題2

以下の英文を和訳せよ。

(1) If I were you, I would be glad to accept the offer.

(2) If I had enough money, I would be glad to lend you some.

(3) If you did not eat enough vegetables, you would get sick.

重要ポイント3 仮定法過去完了の用法

仮定法過去完了は、条件節の動詞は過去完了、帰結節の動詞は一般に「過去形助動詞 + have + 過去分詞」をとり、過去の事実に対する想定をする場合に用いる。

(1) 過去の事実と反対の仮定「もしあの時～だったら…だっただろう」

If you **had left** home at seven, you **could have caught** the train.

(もし君が7時に家を出ていたら、その列車に乗れたのに。)

⇒ Because you didn't leave home at seven, you couldn't catch the train.

((実際には) 君は7時に家を出なかったで、その列車に乗れなかった。)

(2) 結論が現在の事実と反対の仮定「もしあの時…したら、今頃は…だ」

過去の事実に対する仮定をしながら、結論は現在に関わるような想像をする場合は、条

件節に仮定法過去完了，帰結節には仮定法過去が用いられる。

If Bill **had gone** to college when he finished high school, he **would be** a senior now.
(もしビルが高校卒業の年に大学へ進学していたら，もう4年生になっているだろう。)

⇒ Because Bill didn't go to college when he finished high school, he isn't a senior now.

((実際には)ビルは高校卒業の年に大学へ進学しなかったため，今4年生ではない。)

■ 確認問題3

以下の英文を和訳せよ。

- (1) If I had been a bird, I could have flown to you.
- (2) If the teacher had not helped him, he might have failed the oral interview.
- (3) If I had worked harder, I would be richer now.

重要ポイント4 were to ; should を用いた仮定法

(1) If S were to ... 「もし仮に...ということがあれば」

条件節に be to ... の仮定法過去を用いた構文。よって，帰結節の助動詞は仮定法過去になる。

If the sun **were to** be extinguished, every living creature **would** soon die.

(もし仮に太陽が消えてしまうということがあれば，すべての生命はすぐに死んでしまうだろう。)

※ 主語が単数の場合は were の代わりに was を用いることもある。

(2) If S should ... 「万一...すれば」

「万一...すれば」という意味で，話し手が可能性が少ないと思っている場合に用いる。この形に対する帰結節では，仮定法過去のみでなく直説法や命令文がくることもある。

If he **should** propose to you, what **will** [**would**] you answer?

(万一彼があなたにプロポーズしたら，何て答える?)

If Mick **should** call me, **tell** him he can come at any time.

(万一ミックが電話してきたら，いつ来てもいいと伝えて下さい。)

■ 確認問題4

以下の英文を和訳せよ。

- (1) Even if the sun were to rise in the west, I would not change my mind.
- (2) If he should call while I am away, ask him to come again tomorrow.

重要ポイント5 if の省略

条件節に be 動詞 were や had, should, could などの助動詞が含まれる場合，if が省略され

‘Were [Had ; Should] + S’の語順になることがある。〔文語調〕

Had World War II **ended** two years earlier, how many lives **would have been saved** !

(= **If** World War II **had ended** two years earlier, ~ !)

(第二次世界大戦が2年早く終わっていたら、どれほど多くの人命が救われていただろうか。)

Were he to take back his words, I **wouldn't forgive** him.

(= **If** he **were to** take back his words, ~.)

(仮に彼が自分の言った言葉を取り消すとしても、僕は許さない。)

■確認問題5

以下の英文を if 節を使わない英文に書き換え、和訳せよ。

(1) If an emergency should occur, an announcement will be made.

(2) If I were to say “no”, what would you do?

重要ポイント6 仮定法を用いた慣用構文

(1) 願望文

wish + 仮定法過去〔主節の時点において実現困難な願望を表す。〕

I **wish** he **were** here. (彼がここにいればなあ。)

I **wished** I **were** a doctor. (自分が医者ならなあと思った。)

wish + 仮定法過去完了〔主節の時点よりも過去において実現しなかった願望を表す。〕

I **wish** you **had left** that unsaid. (それを言わないでくれればいいのに。)

I **wished** I **had not made** such a promise.

(そんな約束をしなければよかったと思った。)

※**仮定法では時制の一致は起こらない**ので注意する。wish であろうと、wished であろうと、that 節 (that は省略するのが普通) で述べる内容が、主節と同じ時の事柄なら仮定法過去になり、主節よりも前の時の事柄なら仮定法過去完了になる。

I **wish** I **had** a sister. (= I **am** sorry I **don't have** a sister.)

I **wished** I **had** a sister. (= I **was** sorry I **didn't have** a sister.)

I **wish** I **had had** a sister. (= I **am** sorry I **didn't have** a sister.)

I **wished** I **had had** a sister. (= I **was** sorry I **hadn't had** a sister.)

※I wish …は If only …, Would that …! と置き換えることができる。

If only [I wish] I hadn't made such a fuss. (あんな騒ぎを起こさなければよかった。)

= Would that I hadn't made such a fuss!

(2) It is (high (about)) time (that) + 仮定法過去

「…してもよい頃だろう」という‘潮時’を表す場合、It is time に続く that 節内で仮定法過去が用いられる。仮定法過去の代わりに、仮定法現在または‘should + 原形不定詞’がくることもある。that は省略されることが多い。

It is time (that) you **started** earning your own living. (君はもう自活してもいい頃だ。)

※この構文は不定詞を使って次のように書き換えることができる。

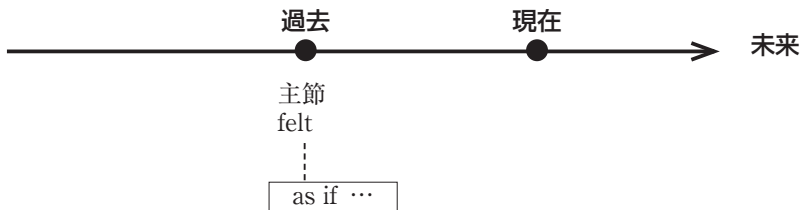
It is time for you to start earning your own living.

(3) as if [though] … 「まるで…かのように」

as if 節で述べる内容が、主節と同じ時の事柄なら仮定法過去になり、主節より前の事柄なら仮定法過去完了になる。

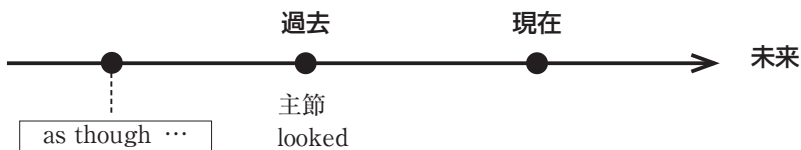
She felt **as if she were** [was] in a dream.

(彼女はまるで夢を見ているような気がした。)



She looked **as though she had seen** a ghost.

(彼女は幽霊でも見たかのような顔をしていた。)



※ 仮定の意味がなく、単に‘様子’を表す場合は、直説法の動詞を用いることが多い。特に、It looks [seems] as if … は「…らしい；…ようだ」という意味を表し、直説法現在・未来・現在完了の動詞が来るのが普通である。

What is the matter with you? You look **as if you are** fainting.

(どうしたんだ。気絶しそうな顔をしているよ。)

(4) if it were not for ~ 「もし～がなければ」, if it had not been for ~ 「(その時) もし～がなかったら」

If it were not for [But for ; Without] music, the world **would** be a dull place.

(もし音楽がなければ、世の中は味気のない場所になるだろう。)

If it had not been for [But for ; Without] your advice, I **could not have succeeded**.

(もし君の助言がなかったら、私は成功できなかっただろう。)

(5) had better + 原形 「…する方がよい、…すべきである」

You **had better not keep** company with him. (彼とは付き合い合わない方がよい。)

※ not は had better の後ろに置く。

■ 確認問題 6

以下の英文を和訳せよ。

- (1) I wish I were a bird.
- (2) I wish I had practiced the piano harder.
- (3) The little girl behaved as if she were an adult.
- (4) He went on talking as if nothing had happened.
- (5) If it were not for the heat of the sun, no living thing could exist.
- (6) If it had not been for your advice, I would have failed.